

総務建設産業常任委員会 視察研修レポート

(平成27年11月19日～20日)

研修先	大分県中津市役所
研修内容	6次産業の 取組みについて
研修先	大分県臼杵市役所
研修内容	公会計制度について
総務建設産業常任委員会	
委員長	松枝 治幸
副委員長	古賀 知文
委員	松枝 友久
委員	中島 和正
委員	古賀 泰弘
委員	徳永 伸行

■大分県 中津市役所

中津市の6次産業の取組みについて

内容

中津市の6次産業は、郡部の過疎地域が抱える課題を解決し、地域を活性化するため、地域の豊富な自然(山・川・里・海)を利用する取組みとされている。

平成23年に、大分県・中津市・農業協同組合・漁業協同組合・森林組合・飲食業組合・商工会議所等からなる、なかつ6次産業創生推進協議会を発足させ、

- ① 組織の人づくり
 - ② 地元産の商品づくり
 - ③ 販売先の開拓、拡大
 - ④ 生産者の生きがいづくり
- 特に高齢者の生きがいづくり

を目的として、6次産業の推進を図っており、平成26年度は、1000万円の予算でコンクールやイベントの開催等により、新商品の開発に取り組んでいる。

所感

大分県を中心に、あらゆる関係機関が連携して6次産業を推進していること、その必要性について参考になった。

例えば、事業者の申請書類が煩雑で出来づらい部分を市がサポートしたり、商談を推進協議会の事務局が行ったり、生産者から6次産業への取組みを推進している面で参考になった。また1次産業の生産者からの取組みは、事業全体の1/2程度で、生産者は生産することに重点を置き過ぎ、販売面まで手が届かないケースが多く、価格の設定等課題が多いようである。

また、ネット販売も手掛けられていたが、認知度が低く検索に手間がかかり、費用対効果については問題があり、方法については検討の余地があると感じた。

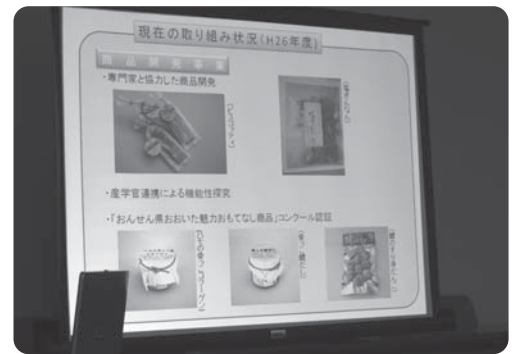
6次産業化は、生産・加工・販売を総合的に組織的な取組みが不可欠ではないかと感じた。

■大分県 臼杵市役所

臼杵市の企業会計方式による予算管理について

内容

臼杵市では、企業経営の考え方を自治体経営に取り入れ、全国の市町村に先駆けてBS(バランスシート/貸借対照表)やPL(損益計算書/行政コスト計算書)など、発主主義会計(企業会計方式)による財務諸表の作成・公表を行い、財務諸表をもとに様々な行政改革を実施している。



中津市での研修の様子

所感

発主主義会計による財務諸表を作成することで、目に見える現金の流れだけでなく、目に見えない債権・債務などを把握することが可能となり、「余産」を生み出す効果的で効率的な予算管理の実現につながっていた。その効果もあり、かつては経常収支比率が大分県58市町村中ワースト1で、財政悪化自治体であった臼杵市も、平成9年に民間出身の市長が誕生し徹底的な財政再建と市役所改革により、平成12年度はワースト6まで財政事情は好転しているとのことだった。大木町でも、正確に町の財政事情を把握し、財政状況が悪化していかないように、自治体経営のロードマップとして財務諸表を活用していくことが必要であると感じた。



臼杵市での研修の様子